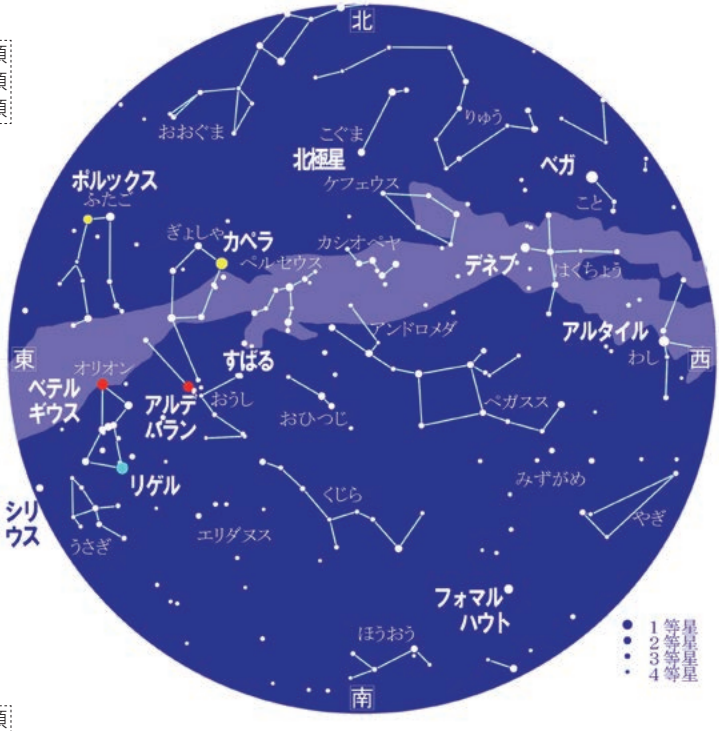
星空ガイド 11月16日～12月15日

よいの星空

11月16日22時頃
12月　1日21時頃
　　15日20時頃



あけの星空

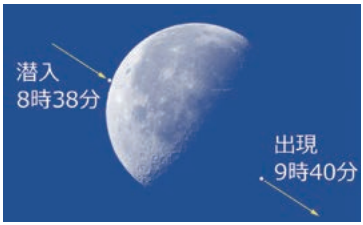
11月16日　4時頃
12月　1日　3時頃
　　15日　2時頃

※惑星は2017年12月1日の位置です。

[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
11	16	木	6:32	16:52	4:05	15:50	27.3
	21	火	6:37	16:50	8:39	19:02	2.6
	26	日	6:41	16:48	12:15	23:23	7.6
12	1	金	6:46	16:47	15:14	3:28	12.6
	6	水	6:50	16:47	19:44	9:07	17.6
	11	月	6:54	16:47	0:02	12:48	22.6
	15	金	6:57	16:48	3:52	15:00	26.6

レグルスの食



12月7日の朝、しし座の1等星レグルスが月に隠されるレグルスの食が起こります。しし座は春の星座ですが、この時期は夜中に東の空に顔を見せ、明け方には南の空に来ます。

7日未明の空には、レグルスと月が近くに並んで輝いているのを見ることができます。2つの天体はだんだんと近づいて行き、夜が明けた後の8時38分、レグルスは月に隠されてしまいます。そして1時間後の9時40分に、反対側から再び現れます。(時刻は大阪での値)

レグルスの食は、先月11月11～12日の夜中にも起こりましたが、この時は潜入の時間はまだ地平線の下で、出現の際の高度も5度程度と、低空での現象でした。今回は食の時間帯の高度は30度程度ですが、朝の青空の中での現象になります。そのため肉眼ではレグルスを見ることはできませんが、小型の望遠鏡があれば簡単に見ることができるでしょう。

ふたご座流星群が極大

12月14日13時ごろ、ふたご座流星群が極大になります。日本時間では昼間にあたりますので、13～14日にかけての明け方、もしくは14日の宵の時間帯が特におすすめです。

この流星群は当たり外れが少なく、毎年1時間あたり20～30個程度の安定した数の流れ星が流れます。放射点が日の入りとともに東の空に現れることから、ほぼ一晩中流れ星を見ることが出来ます。今年は月明かりの影響が少ないため、好条件になっています。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
11	17	金	金星と木星と月が接近(明け方の低空)
	18	土	●新月(21時)
	22	水	月が最遠(406,132km) 小雪(太陽黄経240°)
	23	木	勤労感謝の日
	24	金	水星が東方最大離角 (夕方の空に見やすい)
	27	月	◐上弦(2時)
12	2	土	スピカと火星が明け方にならぶ
	3	日	月とアルデバランが接近
	4	月	○満月(1時) 月が最近(357,492km) この年一番大きく見える満月

月	日	曜	主な天文現象など
12	6	水	海王星が東矩
	7	木	大雪(太陽黄経255°) 水星と土星が接近(夕方の低空)
	9	土	月とレグルスが明け方に接近 レグルスの食 (8時38分潜入～9時40分出現)
	10	日	◑下弦(17時)
	13	水	水星が内合
	14	木	ふたご座流星群が極大(13時) 月と火星が明け方にならぶ
	15	金	月と木星が明け方にならぶ

江越 航(科学館学芸員)